

「JENESYS2.0」2016年度中国建築設計研究院訪日代表团

参加者の感想（抜粋）

○この度、日中友好会館実施の「JENESYS2.0」事業に参加する幸運に恵まれ、中国建築設計研究院訪日代表团35名の一員として日本を訪問することができた。7日間の収穫はとても大きかった。自分の足で日本の土を踏み、東京から京都・大阪・奈良に移動して、経済や文化、建築、国民性など、さまざまな角度から日本について理解し、学ぶことができた。私が身をもって感じたことを以下に整理したい。

- (1) 国際化している。東京と大阪は大きな国際都市であり、道路の立体交差化、複合都市建設、地下空間の利用・開発の3分野の発展がとても印象的だった。立ち並ぶ高層ビル、編み目のように張り巡らされた交通網、交通標識、それらすべてからアーバンデザイナーの空間計画と管理能力のレベルの高さが見て取れた。通行人と自動車の交通マナーの良さに驚かされ、自分もルール遵守の姿勢を見習いたいと思った。
- (2) 高い環境保護意識。日本の細分化したゴミの分別収集やリサイクルは中国も学ぶべきだ。また、日本の建築や橋の多くは鉄骨製で、これは鉄筋コンクリートより更に環境に優しい。建築ゴミを減らせると同時に、耐震能力は強化される。鉄筋建築は、日本の強大な国力と工業力のレベルを表していると思う。
- (3) 細心の配慮がされた設計。介護付き老人ホームと高齢者向け住宅の視察で見た綿密に考えられたデザインの数々には、我々中国のデザイナーも学ぶべきだと思った。例えば、円形に設計された建物は、高齢者が身体を動かしたり、交流を図るのに便利で、孤独感も軽減される。また、ドアに使った丁番の設計は耐震性に優れ、地震が発生しても変形によってドアが開かなくなることはない。更に脱出用スロープなど、すべてに日本のデザイナーの細やかな配慮が見て取れた。
- (4) 今回の交流を通じて34名の仲間と知り合った。周煒団長のもと、私たちは無事研修を終えることができた。必ず日本で学んだことを中国の家族や友人に伝えたい。もっと多くの人が日本を理解し、日本について学ぶようになれば、中日の交流は一層盛んになり、友好関係も促進される。

○高さの違う複数の位置にボタンがついているバリアフリーのエレベーターや、「ゆうらいふ横浜」の入館前に消毒を済ませる措置、また、すき間なく接合された建物内外の構造材など、日本人の人間本位で物事を考える道徳心と細やかで高い追求心を、至るところで目にすることができた。中でも一番印象深かったのは、温泉地のホテルの客室内浴室の床が、使用后あっという間に排水されてすぐに乾いてしまったことだ。その後、積水ハウスの納得工房を視察したとき、心から日本人の人に対する思いやりと技術への飽くなき探究心を知ることになる。スリップの危険を減らすために床表面の摩擦を増やすと同時に、軟質の床材を使うことで快適性も強化していた。日本人がどれほどたゆまぬ努力を重ねて現在の強い国を作り上げたのかが分かった。

帰国後、今回の交流で学んだことや、温かくもてなし好きで、時間に厳しく、仕事熱心な日本人の姿を同僚たちに伝えたい。進んだ科学技術と豊かな地域文化、美しい都会の風貌などを伝えるとともに、向上心を持って最高を目指して努力を続ける日本人の精神も伝えたいと思う。今後も、両国民の間で多様な交流と学習が引き続き行われ、共に発展していけることを願う。

○一週間の日本の旅はもうすぐ終わろうとしている。日本では、とても充実した、愉快で有意義な一週間を過ごすことができた。この数日間で日本人の周到さ、勤勉さ、礼儀正しさ、誠実さを目の当たりにした。振り返ってみたいエピソードはたくさんある。

日本の国土交通省の職員は、高齢化問題について緻密な研究を行っており、高齢化という中日両国に共通する問題の深刻さを痛感させてくれた。東京での2日半の研修では、高齢者住宅や老人ホームなどを何軒か視察し、日本の住宅の産業化のレベルに驚かされた。

京都・奈良の視察では、積水ハウスの最先端の住宅技術に触れたほか、日本の歴史や文化に対しても理解を深めることができた。

大阪は活気に溢れた都市だ。UR都市機構による都市中心部の再生プロジェクトの視察では、日本のきめ細やかさと技術の精緻を目の当たりにした。同機構が開発したオフィスビルに行った時、美しい屋上庭園に目を奪われた。遠くに海へと流れ込む河口を望んだ時、思いがけずこの場所に対してある種の恋しさのような感情が湧いた。

もしかしたら、これが今回の日本の旅の最大の収穫かもしれない。

日本、こんにちは！日本、さようなら！

- （1）国民の一般的教養が高い。いつも笑顔で対応してくれ、温かく、礼儀正しい。サービス産業の従事者は客のために周到に考え、もし道を聞かれたら外に出て道の角まで送ってくれる。大型バスの運転手は、終点に着くと、必ず下車して乗客の荷物をトランクから取り出し、一つ一つ綺麗に並べる。日本人は顔を合わせると互いに挨拶を交わし、別れる時はお辞儀をする。また、歩道を占拠するようなことは絶対にしない。自転車は歩道の上を走っているが、それでも安全だ。
- （2）環境の美しさ、道路の清潔さは私の想像を超えていた。大都市であろうと、小さな街であろうと、どこに行っても清潔でない場所などない。日本にいた8日間、大袈裟ではなく、地面に一片の紙切れすらゴミが落ちているのを見たことはなかった。道路を行き交う車両もすべて清潔で、タイヤさえ地の黒色を保ったままだ。
- （3）生活環境が美しい。街は混雑しているが、条件さえ合えば必ず緑が植えられているし、街中には広い面積に樹木が植えられ、公園が作られている。田舎では家屋の周りにさまざまな種類の植物や松の木が植えられ、綺麗に剪定されていた。草地にもゴミなど落ちていない。
- （4）外出に便利。公衆トイレの数が多く、目印も分かりやすい。トイレ内の備品も揃っている。
- （5）子どもの自己処理能力が高い。小さな幼稚園児でも、一人で階段を上り下りし、一人で遊んでいる。
- （6）公共施設は人間本位の設計がされている。高齢者用や障害者用トイレには警報器が備え付けられ、公園には飲用水の蛇口なども設置されている。

(7) 日本人は民族の伝統と歴史遺産の保護に力を入れている。日本の建築は、たとえ外観は普通で中国の建築のように大きくなく、豪華ではないとしても、その細やかさや人間性、管理といった面で優れている。現在の日本に向き合っ、私は反省した。日本のように、他国の長所を吸収して自分たち民族の意志や精神と上手く融合させてこそ、国は強くなり続けられるのだと思う。

○今回の活動に参加してみて、日本や日本人について一番印象に残ったことといえば、信頼できるということだ。人に与える信頼感というのは、自覚と規律の遵守から生まれる。日本にいる数日間で、日本人は互いに信頼し合っていることが分かった。それが分かる小さな例を言うと、道にゴミ箱がないこと、赤信号で道路を渡らないこと、皆が時間を正確に把握していることなどがある。

活動のテーマは、高齢化社会に適した建築と建築の産業化だ。前者の感想から述べると、老人介護の方面では、確かに日本には中国も参考にすべきところがたくさんあると思った。日本の政策、介護保険、それから建築の中に盛り込まれている細かな設計上のポイント（例えば施設の連続性のあるバリアフリー化、小さなところでは浴槽の高さなど）は、すべて実験や研究の結果、実現されたものだ。産業化についても、積水ハウスの住宅は、既にかかなりの規模と成功例を有している。中国の建築の産業化はまだ、急速な発展の途上にあり、大量の事例から経験を総括する必要がある。日本の経験も参考にしながら、速やかな発展を目指したい。

○日本人に対しては、ぼんやりとした印象しか持っていなかったが、訪日して日本という国の秩序整然としたところや、日本人の礼儀正しさ、仕事に対する責任感や使命感、準備周到さ、温かな人助けの心をはっきり目の当たりにすることになった。また、日本人の環境保護に対する意識や、他人の立場になって物事を考えるところも、私たちは学ぶべきだと思った。

国土交通省を訪問して、日本政府が現在、老人ホームに関してとっている対策について理解することができた。また、横浜にある老人ホームを視察し、日本の老人ホームの設備やサービス、料金についても知ることができた。温泉旅館の宿泊では、日本人のお風呂の文化と畳の上で寝る習慣を体験。積水ハウスの住宅総合研究所の視察では、住宅の産業化について学んだり、顧客個人のオーダーにそって家屋を設計するシステムについて知ることができた。

○活動前の日本の印象

- ・抽象的なイメージしかなかった。例えば、発達した経済、マンガ・アニメやエンターテインメントなどのトレンド、安藤忠雄ら現代建築家の一部の作品など。

活動後の印象

- ・綺麗で清潔（都市や田舎、住宅街や観光地にかかわらず）。日本人は他人に迷惑をかけず、一般的教養が高い。時間を厳守し、仕事態度は真面目。環境保護や節約の意識が高い等。

国土交通省

- ・高齢化問題についての調整、分析、予測はとても専門的で、当面の問題の解決だけを図ろうとするのではなく、未来の視点から解決方法を考えている。

日本総合住生活（株）技術開発研究所

- ・同研究所の集合住宅の研究、既存住宅の維持、保存についての取り組みに学びたいと思った。現在、中国にもたくさんの集合住宅が存在するが、適切な改築がされておらず、現在の人々が生活するには適さない住環境だ。

うめきたプロジェクト

- ・長期にわたる大型プロジェクトで、複数期間に分けた開発の成功例だ。ライフスタイル、ビジネス、交通機関など、一体化したまちづくりを行い、更に知的創造活動の拠点も組み込んでいる非常に先端を行くプロジェクトだと思う。

- (1) 進んだ科学技術。その背景には研究者たちの緻密さと粘り強い研鑽の精神がある。これらの精神は、真面目な研究態度でもある。この分野における日本のリーダーシップは、たゆまぬ努力によってもたらされたものだ。
 - (2) いかなる都市開発と国土資源の持続可能な発展も、すべて人と自然の調和・共存に立脚しており、人々が安心・安全で快適かつ健康な生活を送ることを前提にしている。浮ついたところがない。
 - (3) 精密な建築技術、研究開発力の強さ、工業化生産のプロセスや施工技術の精巧さなど、これらのすべてが、開発、デザイン、建築に致るまでの成功要因になっている。
-
- (1) この交流に参加できてとても嬉しく思う。日本側の引率のもと、社会、人々、建設、経済、生活習慣など、多面的に日本を体験することができた。業務に関する視察について。例えば、積水ハウスの工房視察では、展示スペースの各所に位置ガイド参観システムが目印があり、現代のテクノロジーが導入された人間本位の建設理念に至るところで目にすることができた。UR都市機構のプロジェクトもそうだ。大阪駅周辺の商業施設と未来の地下空間の開発・利用を、災害時の避難空間の確保と結びつけて考えている。一つのPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）のプロジェクトモデルが作り上げた行政サービスと民間資本を後押しする流れが、良好な都市空間の開発・利用の市場の発展を支える働きをしている。成熟した経験によって強化され続ける、都市の高度化の新しいプロジェクトモデルだと思う。
 - (2) 日本の文化・娯楽産業と飲食業の発展の様子を見て、都市部の消費がどういった方向に拡大していくのかが分かった。
 - (3) 日本の高齢者介護についての考え方と独立した生活を好む習慣から、都市の発展が人間の活動に与える影響を見てとることができた。最終的には、国によるインフラサービスの整備が、国民の安らかな生活を形づくるのだと思う。